

胃カメラ検査を受けられる方へ

～安心して受診いただくためのご案内～

※上部消化管内視鏡検査又は胃内視鏡検査＝胃カメラです。
※胃透視検査又は胃エックス線検査＝胃バリウム検査のことです。
お間違いのないようにご予約をお願いいたします。



重要!

当日の自己都合によるキャンセルは料金が発生いたしますのでご了承ください。
胃カメラ検査はご希望の方が多くいらっしゃる検査です。
限られた枠のため、当日キャンセルのないようにご協力をお願いいたします。

! 胃内視鏡検査(胃カメラ)に関して下記に該当される方は検査は受けられません

- ①歯科麻酔（キシロカインアレルギー）のある方
（のどの麻酔は歯科麻酔と同じ成分のものを使用するため）
- ②妊娠中の方、妊娠の可能性がある方
- ③体重130kg以上の方（検査台の耐荷重を超えて利用ができないため）



事前にキャンセルのご連絡やご相談を必ずお願いいたします

! 当てはまる方は申し出てご相談ください

- ①症状のある方は病院受診をおすすめします。すでに半年内に検査を受けた方は事前にご相談ください。
- ②食道や胃の病気で治療中、ピロリ除菌後など専門医で経過観察を行っている方は病院での継続受診をおすすめします。
- ③血圧が180/100以上高値の方は、危険回避のため受けられません。
（高血圧を指摘されており未治療の方で、当日の血圧が高い場合は検査は受けられません）
- ④糖尿病薬治療中（腎不全や心不全、肥満症、メディカルダイエットで血糖降下剤服用の方も含みます）の方は当日の内服や注射をすると検査は受けられません。（治療薬による低血糖リスクがあります）
主治医の許可があっても検査当日は使用しないでください。
- ⑤検査を行うメリットを検査の危険性が上回ると考えられる状態の方（感染症罹患直後の方、腹部手術後6か月以内の方、心臓や呼吸器疾患の既往のある方、現在かかっている病気が重症であるなど）状況によっては医師の指示にて検査が受けられない場合や、薬剤が使用できない場合があります。

裏面を必ずお読みください



！鎮静剤を使用して検査を受けたい方

- ①帰宅時の車・バイク・自転車運転、終日車両運転のある方は使用できません。1時間は休んでからの帰宅となります。
- ②サイレース（鎮静剤）の過敏症の方、重症筋無力症の方、閉塞隅角緑内障の方は禁忌薬です。使用できません。
- ③当日高眼圧（緑内障が疑われる方）の方は鎮静剤が使えない場合があります。
【緑内障】【緑内障疑い（眼圧が高いなど）】【視神経乳頭陥凹拡大】に該当する方は、事前に眼科主治医に鎮静剤使用可否を確認してください。
- ④授乳中の方は乳児の安全のため、検査当日の授乳を避けることができない方は使用できません。



がん検診の適切な受け方を考えよう



がん検診には利益と不利益があります。がんで亡くなることを防ぐためには、がん死亡を減らす効果が確実で、かつ、利益が不利益を上回る検診を受けることが大切です。科学的根拠が確立した検診を適切な年齢、適切な受診間隔で受けましょう。

- がん検診の利益
- ①標的とするがんによる死亡を防ぐこと
 - ②早期発見により治療が軽度ですむこと
 - ③本当にがんがない人が検診で異常なしとなり安心して生活できること



指針で定めるがん検診の内容

胃がん検診は対象者を50歳以上、問診に加え、胃エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれかを2年に1回の受診間隔で定めています。※当分の間胃部エックス線検査については40歳以上に対し年1回実施可となっています。

対象年齢より若い年代ではそれぞれのがんに罹る人が少なく、有効性も確立されていないため、がん検診の利益より、不利益が大きくなります。

- 1.偽陽性のリスク・・・検診で見つかる異常の多くががんではない可能性が高くなること
- 2.過剰診断・過剰治療の可能性・・・成長スピードが極めて遅いがんなどの理由により治療をしなくても命に関わらない場合があること、しかし治療が行われやすく不必要な手術や治療を受けることがある
- 3.放射線被ばくなどによる身体的影響・・・長期的に見て他の健康リスクを増やす可能性がある
- 4.偶発症・・・医療行為による合併症（例：内視鏡による出血や穿孔、バリウムの誤嚥や腸閉塞など）
- 5.検診精度が低いことがある・・・検診の精度は、がんの種類や年齢によって異なるため、結果として偽陰性の可能性もでてくる
- 6.医療資源の分散・・・本来検診対象となる高リスク年齢層の方への医療資源が分散されることになり、効果的ながん対策が行いにくくなる可能性がある
- 7.経済的負担・・・検診費用や検診後の追加検査費用がかかる場合がある

